

第23回 多摩の歴史講座 実施報告

本紙8月号 (No.071) で募集した『第23回 多摩の歴史講座』(たましん地域文化財団・東京市町村自治調査会共催) は、100名を超える受講生の皆様にご参加いただき、2019年9月20日から11月22日にかけて全5回の講座を開催しました。

今年は、旧石器時代末期から縄文時代草創期に焦点を当て、「旧石器時代から縄文時代へ～環境の変動と人々の適応～」というテーマで実施しました。

第1講から第4講では、「縄文時代草創期には、気温が数十年で7~8℃も上昇するような気候変動により植生や生態系に変化が起き、これに順応するように、狩猟道具も槍から弓矢へと変わっていったことが出土した石器から読み取れる」など、環境・植生・石器・土器、それぞれの視点を通して解説をいただきました。特に、近年の年代測定法の精度向上により、土器の出現が今まで考えられてきた年代より5千年もさかのぼり、1万年前の地球環境の温暖化により土器が出現したとする従来の説が成り立たなくなってきたというお話は、大変興味深いものでした。

第5講では、東京都立埋蔵文化財調査センター(多摩市) で見学会を開催し、国指定重要文化財である「あきる野市前田耕地遺跡の出土品」や「多摩ニュータウン遺跡の出土品」などを解説付きで見学しました。

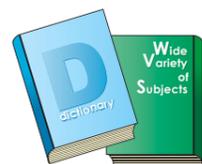
今回の歴史講座でご講義・ご解説をいただきました講師の方々、ご参加いただきました受講生の皆様に厚くお礼申し上げます。次回も皆様の興味・関心を深めることのできる講座を企画しますのでご期待ください。



第2講の講座風景



前田耕地遺跡出土品の解説風景



特定非営利活動法人

東京雑学大学

2020年2月講義案内

(受講料: 会員無料・会員外は1回につき500円)

| 番号 | 日時 | 講義テーマ | 教授 | 会場 |
|--------|---------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1210回 | 2月2日(日) 14:00から | 「民俗学者 宮本常一」 庶民による庶民のための 民俗学を貫いた男の話 | こくまい かきぞう 国米 家己三氏 (フリージャーナリスト) | 柳沢公民館 (西武新宿線西武柳沢駅南口 徒歩1分) |
| 第1211回 | 2月6日(木) 14:00から | 小幡甚三郎のアメリカ留学 一明治初期留学生のジェンダー的苦悩 | 西澤 直子氏 (慶応義塾大学 福沢研究センター教授) | 小金井市前原暫定集会施設 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井市役所向い、商工会館隣) |
| 第1212回 | 2月13日(木) 14:00から | ドラマ「あさが来た」の 廣岡浅子の生き方 | 佐々井 啓氏 (日本女子大学名誉教授) | コール田無 (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分) |
| 第1213回 | 2月20日(木) 14:00から | 令和と万葉集 | 小野 寛氏 (駒澤大学名誉教授・ 高岡市(富山県)万葉歴史館名誉館長) | 小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F) |
| 第1214回 | 2月27日(木) 14:00から | 医学・生物学研究者と歩んだ顕微鏡作り 一顕微鏡にはロマンがある | 米窪 健氏 (認定NPO法人コアネット・ 元オリンパス(株)取締役・技術開発本部長) | 小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F) |

☆申込みは必要ありません。直接会場へお越しください。
問合せ先 TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原)

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第119回 アジアの今を読み解く

【講師】 ^{みやもと けんすけ} 宮本 謙介 氏

北海道大学名誉教授。亜細亜大学特任教授。台湾・国立台中科技大学兼任教授。社会学博士(一橋大学)。専門はアジア社会経済史、現代アジア社会経済論。朝日カルチャーセンターなど市民講座の講師経験も豊富。著書に『アジア開発最前線の労働市場』など多数。

【内容】 「21世紀はアジアの世紀」と言われます。今回の日曜講座では、アジアの政治・経済・社会の動きに関するホットな話題を題材にしながら、注目すべきいくつかのテーマに即して「アジアの今」を読み解きます。

今や超大国として国際社会で存在感を増す中国、地域協力熱心な東南アジアと巨大な潜在力をもつインド、紛争の火種を抱えるイスラム圏の西アジア、さてアジアの今後はどうなるのでしょうか。日本はどうかかわるべきでしょうか。さあ一緒に考えましょう。



日時 1月19日(日) 14:00~16:00
場所 多摩交流センター会議室
府中駅北第2庁舎6F (府中市寿町1-5-1)
(京王線 府中駅北口 徒歩3分)
※駐車場はありません。ご注意ください。

申込方法 当日会場にお越しください。先着50名までとさせていただきます。
受講料 無料
問合せ先 多摩交流センター内 TAMA市民塾
TEL 042-335-0111

「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F
TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127
ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- あけましておめでとうございます。「令和」初のお正月となりました。
- 昨年は「令和」の新たな時代が始まるとともに、スポーツ界で全英女子オープンゴルフ大会優勝を果たした渋野日向子選手やラグビーワールドカップで初めて1次リーグを突破して8強まで進み、多くのファンを熱狂させた日本代表チームの活躍など思いがけない展開が明るい話題となり大きなムーブメントを起こしました。
- さて、今年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。各競技に出場する日本代表選手も続々と決まりつつあり、今年の夏までの話題はスポーツ一色になりそうです。メイン会場の新国立競技場は、元日のサッカー天皇杯が初のスポーツイベントとなり、続く1月11日には全国大学ラグビー選手権大会決勝戦が行われる予定です。
- 3月にはオリンピック聖火リレーが始まり、全国を回った後の7月に東京の全市区町村を巡り、開会式が行われる新国立競技場に向かいます。聖火が福島県からスタートするのは、東日本大震災の被災地の魅力と復興を世界に向けて発信する意味があります。スポーツの持つ力が各地で様々な形でレガシーとなることを期待したいと思います。
- スポーツの明るい話題の一方で、昨年秋に連続して首都圏に襲

来し、各地に停電や河川氾濫、土砂災害、交通網の混乱を起こした台風災害は、気象庁が繰り返し発した「命を守るための行動を…」という言葉とともに強く印象に残った出来事でした。

○ スポーツと災害には共通項があり、それは「想定外」から起こるといえます。片や思いがけない感動と熱狂を生み、一方は夢想だにしない困難と苦しみにあふ。どちらも「想定内」では容易には起こらないものです。

○ 日本の気象災害は、これまでの経験則を越える新たなステージに入ったと警鐘を鳴らす有識者がおり、安全・安心を謳う日本社会がしっかりと対応しなければならない大きな課題です。

○ 「釜石の奇跡」(住民への防災教育・津波避難)で有名な東京大学の片田教授は、行政主体の防災の限界を踏まえた転換が要点であるとして、「動けない人は行政が、それ以外の人たちは自分の命は自分で守る。災害大国に住む日本人が、自分と大切な人の命を守るため考えてみてほしい。」と論じています。まさに「命を守るための行動を…」です。

今年はどうか無事に、世紀の感動を堪能したいと祈念しています。

(M,N)

